

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100677		
法人名	社会福祉法人川水流福祉会		
事業所名	グループホームひえいの郷		
所在地	宮崎県延岡市北方町川水流卯1810-24 (電話) 0982-47-3211		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台にあるホームは、山々に囲まれ、共用空間は大きく高い窓を備え、広々とした空間を確保することで、風景の中にとけ込み、自然と共存している。利用者は、職員と共に「ゆっくり、一緒に、楽しく」自然体で過ごしている。地域とのつながりを大切にしながら、施設長、管理者、職員が話し合いを重ね、本人本位に寄り添うケアをしている。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】 (平成21年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 6年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤0人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨、木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(平成21年6月5日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	6	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 83.1歳	最低 59歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北方医院、野田クリニック、宮谷歯科医院
---------	---------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進委員への民生委員の参加や、金銭出納簿の確認日記入等、改善課題は改善計画シートに沿って取り組まれ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長の熱意を受け、管理者、職員が、全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。自己評価を日々の業務の見直しができる良い機会ととらえている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回の運営推進会議では、ホームの現状報告、評価の取組状況等、サービスの質の向上への理解を深める取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会開催時やホーム来訪時に、声かけをすることにより意見を聴取し、そのことを全職員で話し合い質の向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ふるさと訪問、地区行事参加、フェスティバルへの作品出展、保育園児との交流、近隣の店での買物など地域との連携を図っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた土地で、その人らしい生活が送れるよう、また、「自分が入りたい施設」になるように心がけており、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を主軸に理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、ミーティング時に話し合い、実践する際、本人本位に、「ゆっくり、一緒に、楽しく」を常に意識して行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふるさと訪問（墓参り等）や地区の行事、フェスティバルへの作品出展参加、保育園児との交流で梅ちぎりも一緒に体験するなど、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は十分に理解されており、全員で話し合い取組まれている。また、課題となった項目は改善計画を立て、具体的な改善に取り組んでいる。		

宮崎県延岡市北方町 グループホームひえいの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議では現状報告や評価の取り組みについて報告し、意見をもらいサービスの向上につなげている。	○	運営推進会議がホームの質の向上に結びつくために活発な意見、要望を引き出す、より一層の努力をお願いしたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へ「郷だより」を送っており不明な点は、相談し指導が受けられる関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「郷だより」を本人の手紙を添える等して届けている。来訪時にも日常の様子を伝える等、個々に合わせた報告をしている。4か月に一度の家族会の折に、預かり金の確認をしていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族会開催時に意見、要望を聞くように努めており、苦情ボックスを設置する等意見の収集に努め、それを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設内の異動であり、顔なじみである。普段交流する機会作りをする等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	「郷だより」の中に職員移動のお知らせを入れ、家族へも発信されることを望みたい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回内部研修を行っている。外部研修分はミーティングや職員会議で報告し、全職員へ周知を図り質の向上に努めている。	○	ミーティング職員会議等で報告周知を図っているものの、記録方法の検討を望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の折に触れ、他施設従業者と情報及び意見交換を行い交流を図っており、質の向上に生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談しながら工夫し、サービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	わからない事を教えていただいたり、職員の様子を見て、自ら手伝ってくれる方もいる。一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、学び支え合う関係作りがされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを導入し、利用者の希望、意向の把握に努めており日々の会話の中でも常に本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見を聞き、意見、アイデアを反映した介護計画を作成している。	○	家族会や来訪時に聞き取る努力はしているものの、意見が少ないため、更なる取り組みを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に基づき日々の記録が詳細にされ、現状に即した見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じた併設施設の応援体制ができている。本人や家族の状況、要望に応じて病院への送迎も行っている。また、地域の中で災害時、避難所としての位置づけもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が毎週往診し、利用者の状況確認をしている。適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時にホームでの対応が困難になった時には、併設施設や病院への紹介をする等、あらかじめ説明をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に個人情報に関する取り扱いについて説明し同意をとっている。また、職員の言葉かけや対応は、プライバシーの配慮がなされたものであり穏やかである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ゆっくり、一緒に、楽しく過ごすことを念頭に置き、希望に沿った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内での手伝いがさりげなくされ、一緒に準備や片づけがされている。食事は、彩り、バランスも良く、利用者が笑顔で食事をされ完食されていた。	○	食事介助の職員は、介助のみで一緒に食事を取っていない。全員で同じ食事を取りながらの時間共有の検討をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後、希望を聞きながら個浴での好みに応じた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好きなことを把握し、日々の活動計画に生かしている。カレンダーめくり、テーブル拭き、洗濯物たたみ、食器洗い、花の水替え等、それぞれに役割を持った生活をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、園内やホーム周辺の散歩をしたり、買物やドライブ等に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけられていない。玄関外の七夕飾りを見に出られた利用者を見守る等、寄り添うケアがなされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜の想定をし、計画的に避難訓練が行われている。消防団の方々の協力もあり、日頃からの協力体制はできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を併設施設の栄養士に確認してもらいアドバイスを受けている。水分摂取量はそれぞれの状況に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花が飾られ、利用者と職員が共に作ったアジサイの折り紙が壁に飾られている。自然の光の中で、静かに音楽が流れており、居心地良く過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、ぬいぐるみ、テレビ等がそれぞれの好みで持ち込まれている。		

※  は、重点項目。